

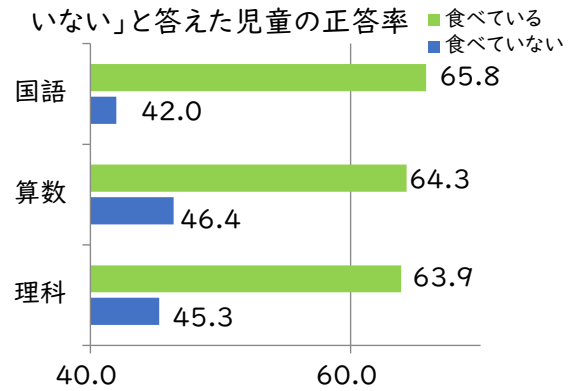
学力と生活習慣

ご家庭においても、お子さんの頑張りを認め、これからご家庭でできることについて話し合ってみてください。

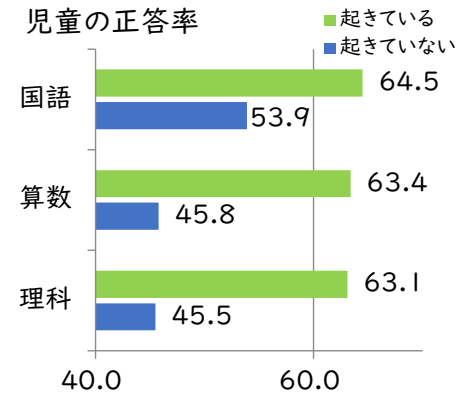


生活のリズムを見直そう

○朝食を「毎日食べている／全く食べていない」と答えた児童の正答率



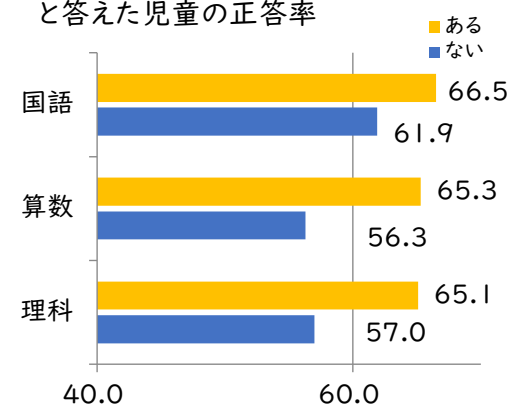
○毎日、同じくらいの時刻に「起きている／起きていない」と答えた児童の正答率



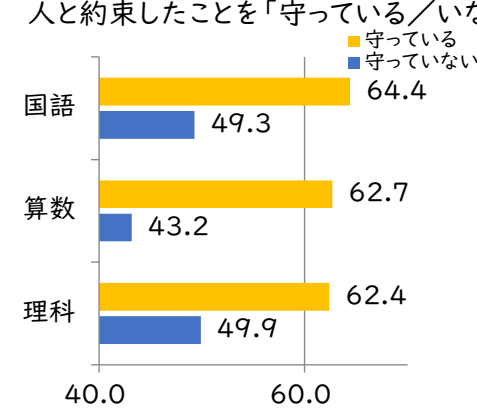
毎日、朝食を食べている児童ほど正答率が高い傾向がみられました。また、睡眠や食事などの時間を決めることは、生活のリズムを整えることにもつながります。

家族の会話やルールを大切にしよう

○自分には、よいところが「ある／ない」と答えた児童の正答率



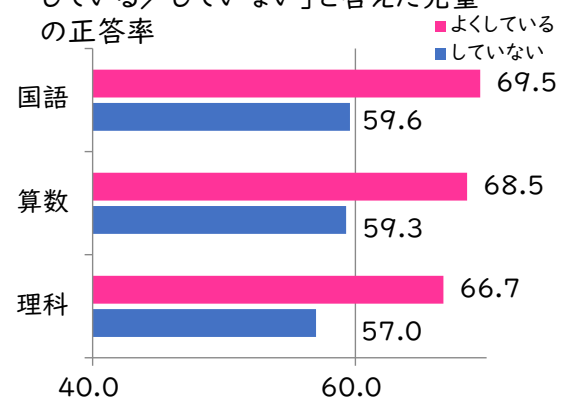
○携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを「守っている／いない」と答えた児童の正答率



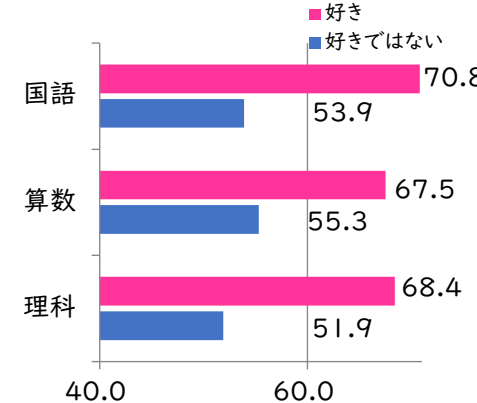
子どもの話に耳を傾け受け止めることや、取組を粘り強く見守り、努力を認め、褒めることを心掛けることが大切です。また、家庭のルールについては、きまりがある理由などを家族で一緒に考えることが大切です。

学習習慣を身につけよう

○家で自分で計画を立てて勉強を「よくしている／していない」と答えた児童の正答率



○読書は「好き／好きではない」と答えた児童の正答率



「漢字や計算を繰り返し練習する」など、毎日少しずつでも学習に取り組むことが大切です。また、図書館を利用したり、親子で同じ本を読んで感想を伝え合ったりすることもよい取組です。

加古川市教育委員会は「教育アクションプラン」を策定し、「未来を拓く学び推進事業」に取り組んでいます。

加古川市教育委員会

〒675-8501 加古川市加古川町北在家2000



←未来を拓く
学び推進事業
について



←全国学力・
学習状況調査
について
(概要)

保護者のみなさんとともに考える

加古川市の学力・学習状況 (小学校)

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果より

令和4年4月、全国学力・学習状況調査が行われました。この調査は、児童の学力・学習状況を分析し、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的としています。この調査における加古川市の子どもたちの現状を分析し、結果をまとめました。

先生はあなたの
良いところを
認めてくれている
93.0%
(全国87.1%)

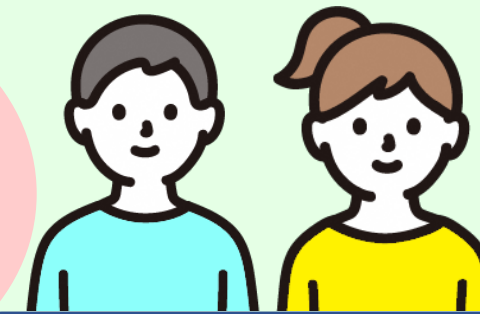
学校に行くのは楽しい
89.8%
(全国85.4%)

友達と
協力するのは楽しい
95.7%
(全国94.0%)

将来の夢や
目標をもっている
82.5%
(全国79.8%)

自分の考えを
深めたり、広げたり
することができている
84.0%
(全国80.1%)

人の役に立つ
人間になりたい
96.9%
(全国95.1%)



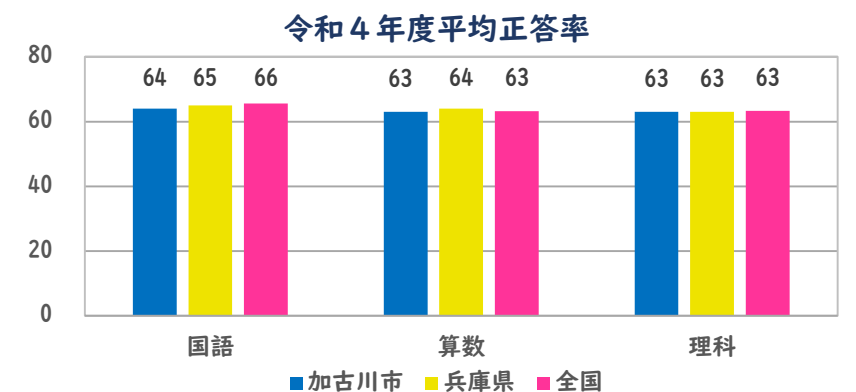
加古川市の子どもたち

児童質問紙で肯定的に回答した割合の高かった設問より

教科に関する調査結果

・加古川市の結果を全国平均と比較すると同程度でした。

・記述式問題の無解答率は低く、正答率においても向上した問題が見られ、『協同的探究学習』の成果が表れてきています。



掲載している内容は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、今回の結果をもとに、授業改善や家庭との連携のあり方について考えるきっかけとして活用し、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っていきたいと考えています。

今年度、加古川市の子どもたちが苦手としている問題です。

考えや思いを受け止め、子どもと一緒に考えることが大切です。

国語

感想や意見を伝え合う経験を大切にしよう

【書くこと】経験を基に考えたことを書く
文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけられるかどうかをみる問題

・文章についての感想や意見を具体的に伝え合う活動(右資料)を基に、島谷さんの文章のよさを島谷さんの立場で、60字以上100字以内で書く。

(○正答例)
わたしの文章のよさは、自分の経験したことをもとに書いたところです。五年生の時のさいばい委員会での自分の活動をもとに六年生で取り組みたいことを書くことで、がんばりたいという思いを伝えることができました。(100字)

(○正答例)
最後のだん落に「運動が苦手な人にも親んでもらえるように、ルールや道具をくふうしたおに遊びやボールゲームを各学級にしようかしたい」と、一年間でがんばりたいことを具体的に書いたところが文章のよさです。(100字)

(△誤答例)
わたしは、五年生の時、美化委員長の話を聞き、さいばい委員会で自分が行った活動をふり返って、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを反省しました。(76字)

誤答例には、条件に合う言葉や文が取り上げられていますが、文章の「よさ」については書かれていません。

伝え合いの様子から文章の「よいところ」を見つけることが大切です。

「伝え合いの様子の一部」

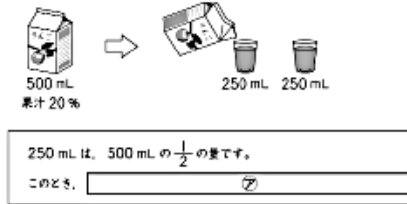
島谷さん 川口さん 島谷さん 川口さん 島谷さん
 秘密のたんぼろうとしていたことが伝わるかな。伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会でも活動したことをもたしているからだね。
 島谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。
 川口さん 最後の段落がいいね。なぜかというところ、最初の段落の内容をより具体的に書いてあるから、今年がたんぼろうとしていたことがよくわかって伝わってきたよ。
 島谷さん ありがとう。自分でもふり返ってみたいね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。
 (伝え合いが続く)

算数

日常生活の場面を思い出して考えよう

【変化と関係】二つの数量の関係について考察する
数量(飲み物の量)が変わっても割合(飲み物の濃さ)は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題

・果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。



(△誤答例:①②)

① 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。

② 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。

(○正答例)

③ 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

日常の具体的な場面に対応させながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の果汁の濃さを表していることを理解することが大切です。

飲み物を分けても、果汁の濃さは変わらないなど、経験したことを関連づけて考えることが大切です。

理科

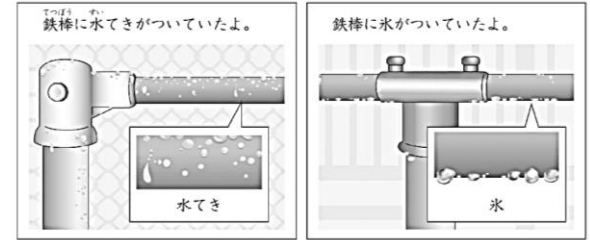
学習したことを生活の中でも活かそう

【地球に関する問題】自然の事物・現象について理解する
水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかどうかをみる問題

・鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものなのかについて に入る言葉を書く。

(○正答例)
・水蒸気
・水が蒸発したもの
・水が気体になったもの

(△誤答例)
・蒸気 ・湯気(ゆげ)
・空気の成分である気体
・空気 ・気体



朝、鉄棒に、水てきや氷がついていた。気温が下がり、空気中の が冷やされて、水てきや、水てきになったあと氷になる現象が見られた。左の写真は「つゆ」、右の写真は「どうろ」というらしい。気温のちがいで、異なる現象が起こることがわかった。

問題解決を通して、既習の知識を活用し、学習した内容について日常生活との関わりの中でもう一度考えてみるのが大切です。

例えば・・・
コップの外側に付いた水滴がしばらくすると消えたのは、水蒸気とどんな関係があるかについて考えてみるのが大切です。

「協同的探究学習」が育む子どもの「わかる学力」と「自己肯定感」

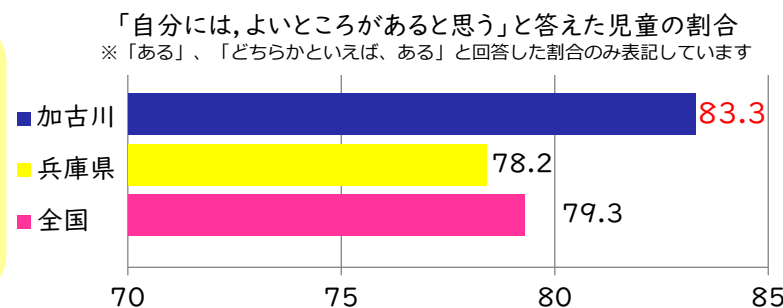
協同的探究学習とは、いろいろな考えが可能な問題に対して、一人ひとりの子どもが自分なりの考えを書き、クラスで考えをつなげて深める学習です。

これからの時代には、自分で様々な知識を関連づけながら考え、他者と考えを共有し、ものごとの本質を理解していく「わかる学力」が重要になります。

協同的探究学習により一人ひとりの「わかる学力」や自己肯定感が育ちます。



友達や先生から自分の考えを認めてもらうことで、自分のよさに気づき、自己肯定感が高まります。
今回の調査では、自分には、よいところがあると感じている児童の割合は全国平均を大きく上回り、取組の成果が表れてきています。



学級全体で考えを出し合うなかで、新たな気づきが生まれます！

協同的探究学習では、学級全体で考えを共有することを大切にしています。自分の考えや友達の考えから違いやつながりを見つけたり、新しいものの見方・考え方に気づいたりするなかで、自身の考え方の幅が広がり、理解が深まります。

Point 違う意見について考える学習で楽しさを感じることは、学力向上につながっています



協同的探究学習

自分で考える力がつきます！

協同的探究学習では、解き方や考え方が1つではない問題を提示し、自分の力で解く時間をしっかりとっています。自分の持っている知識を使って、自分なりの方法で問題を解く力が身につきます。

Point あきらめずに自分なりの方法で解く力が身につく、無解答率が低くなります

根拠を明確にして書く力がつきます！

協同的探究学習では、理由や根拠を大切にしています。「なぜ、そう考えたのか」を一人ひとりが書くことで、資料や文章の中から、必要な情報を読み取り、理由や根拠をはっきりさせて、表現する力が育まれます。

Point 全国的に課題となっている、資料を基に表現する力が身につきます

